

27年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年 1月20日～ 27年2月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
入荷動向	スギ	16.7	0.0	0.0
	ヒノキ	50.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 20.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 33.3
消費動向	スギ	0.0	20.0	20.0
	ヒノキ	0.0	25.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	20.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	16.7	0.0	△ 20.0
	ヒノキ	25.0	0.0	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 60.0
	トドマツ	0.0	0.0	△ 33.3

・スギ及びヒノキ原木の入荷は、2月の増加から3月、4月は横ばいに、カラマツ及びトドマツは2月、3月の横ばいから4月は減少に。

・スギ原木の消費は、2月の横ばいが3月、4月は増加に、ヒノキは2月の横ばいが3月増加するが、4月は横ばい、カラマツは2月、3月の横ばいから4月は増加、トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ原木の在庫は、2月の増加が3月は横ばい、4月は減少に、ヒノキは2月の増加の後3月、4月は横ばいに、カラマツ及びトドマツは2月、3月の横ばいから4月は減少に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
スギ	△ 16.7	20.0	20.0
ヒノキ	△ 25.0	0.0	0.0
カラマツ	16.7	60.0	20.0
米マツ	0.0	△ 25.0	0.0
北洋カラマツ	△ 20.0	△ 50.0	0.0
その他	100.0	100.0	100.0

・スギ原木価格は、2月のやや弱保合が3月、4月は強保合に、ヒノキは2月のやや弱保合が3月、4月は横ばい、カラマツは強保合ないしやや強含みで推移、米マツは保合ないしやや弱保合で推移、北洋カラマツは2月、3月のやや弱含みが4月には横ばい、その他は強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・カラマツ、トドマツは、国有林の請負事業が遅れ気味、12月の入荷が前年と同じ位、1月からは入荷増を見込む。在庫は冬季間は増える。

・生産に合わせて入荷、品目の生産量は変わるが全体生産量は変わらず横ばい、在庫はほぼ横ばい。

・順調に入荷、生産調整中で4月以降消費増加。

・地域による出材ペースに温度差あり、需要低調ながら天候による出材減のところは丸太価格強含みのため入手難。一方で、時期はずれの国有林材大量入荷のところは、価格・量が手ごろに一部の丸太のみ冬ごもりのため入荷増。相変わらず需要低迷だが少ないながらもコンスタントな消費。一部樹種で在庫積み増し、天候及び相場を見ながら対応。

・森林管理署契約分が2月にまとめたのが入荷が予想される。消費は3月増える。入荷増える分在庫も増える。

・昨年同時期と比較して安定的に納材されている。計画通り消費、適正在庫維持、ヒノキ材増加。

(原木価格)

・スギ、カラマツ国産材は変化なし、米マツ、北洋材の原木自体は下がっているが、為替によりどうなるか。

・国産材上昇傾向、外材(米材)高値のまま。

・スギ、ヒノキは上昇地域と下落地域あり、外材(針葉樹)は為替による上昇中も、春先入荷はドルベースで相殺されると推測。

・荷動きの割には原木の出材が多いように感じる。

・国産材の引き合い激化、3月以降樹種により上昇ムード、2月まで現状維持。

27年2月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		26/2月	3月	4月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	△ 20.0	0.0
	〃 (12mm)	14.3	△ 16.7	0.0
	〃 (15mm)	△ 14.3	△ 16.7	0.0
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 16.7	0.0
	〃 (28mm)	△ 28.6	△ 16.7	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	△ 33.3	△ 40.0	0.0
	〃 (12mm)	△ 14.3	△ 33.3	0.0
	〃 (15mm)	△ 28.6	△ 33.3	0.0
	〃 (24mm)	△ 28.6	△ 33.3	0.0
	〃 (28mm)	△ 28.6	△ 33.3	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	16.7	20.0	△ 20.0
	〃 (12mm)	28.6	33.3	0.0
	〃 (15mm)	28.6	33.3	0.0
	〃 (24mm)	14.3	33.3	0.0
	〃 (28mm)	0.0	33.3	0.0

・9mmの生産は、2月の横ばい、3月の減少、4月の横ばい。12mmは2月の増加、3月の減少、4月の横ばい、15mm、24mm及び28mmは2月、3月の減少から4月は横ばいに。

・合板の出荷は、どの品目も2月、3月の減少から4月は横ばい。

・在庫は、2月及び3月は、28mmの横ばいを除いた品目は全て増加し、4月は9mmの減少を除いて全て横ばい。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/2月	3月	4月
構造用(9mm)	△ 33.3	0.0	20.0
〃 (12mm)	△ 42.9	△ 16.7	16.7
〃 (15mm)	△ 28.6	△ 16.7	16.7
〃 (24mm)	△ 42.9	△ 16.7	16.7
〃 (28mm)	△ 28.6	△ 16.7	16.7

・出荷価格は、2月は全品目弱保合、3月は9mmの横ばいを除いて全品目やや弱保合、4月は全品目やや強保合。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・若干生産減、出荷荷動き落ち着く、適正在庫。
- ・先月の出荷状況より、生産は9、12mmは増、24、28mmは減。市況、荷動き悪く出荷量はほぼ横ばいながら品目により多少増えるかも。出荷はほぼ横ばいながら在庫は9、15mmは横ばい、12mmは増、24、28mmは減る。
- ・生産は今月も引き続き調整、出荷は今月、来月動き弱し、翌々月から上向きか。
- ・変化なし。
- ・生産量は先月並。年度末を迎え需要も落込み、荷動きは鈍ると思う。本州から九州向けのトラックが増加しており、他メーカーが攻勢に転じている、在庫は増える。
- ・1月は計画通り生産、特にヒノキ材を使用した製品を増産。出荷は12mm、28mmが増加傾向、2月中旬より横ばい、全品種2月中～3月末まで減少する可能性あり。H26.12月、H27.1月と減少、2月、3月で適正在庫へ。

(合板価格)

- ・価格に変化あり(弱い)。
- ・全体的に荷動き悪く、下落傾向。
- ・今月弱含み、不安定な時期、翌々月の動き活発化に伴い上昇。
- ・大きな変動なし。
- ・九州は順調に販売することが出来たが、これから消費が落ち込んでくる中、非常に厳しい状態になってくる。
- ・2月、3月の出荷動向により値下げ感が見られる。現状維持、下げ止まりに期待したい。